

高齢者の補聴器について

明石市・永本医院 永本 浩（医師）

年をとると、誰でも老人性難聴が起こります。症状としては、音は聞こえても言葉の意味がわからない。しかし、補聴器の装着は老眼鏡の様に簡単にはいきません。聞こえ難いことは痛くも痒くもないので、難聴に伴う耳鳴りは別にして難聴者自身はあまり困っていませんが、その周囲の家族や友人が意思の疎通が難しくなり、非常に困ります。

また、難聴を放置すると認知症が進行する事があります。北欧先進国では軽度の難聴から補聴器を装着する場合に公的補助がありますが、日本にはまだ十分に法的整備がなされていません。両耳 70db 以上の難聴、(身体障害者 6 級)。

TV や新聞のチラシ広告や通信販売などで補聴器まがいの集音器や、電気店等での店頭販売には要注意。補聴器は医療機器であり、家電製品ではありません。認定補聴器専門医のいる耳鼻咽喉科の受診をお勧めします。安易に通販で購入した集音器、助聴器は本当の補聴器ではありません。

補聴器は携帯電話やスマートフォンの技術の向上と軌を一にしています。小型軽量化、デジタル化、また今までの空気重鉛電池から充電式の補聴器になり、電池交換不要で、年をとって視力や手先の器用さが低下しても補聴器を置くだけで充電可能、また電話機とワイヤレスで繋いだり火災報知器や耳鳴りを軽くしたり目覚まし機能等々あります。

将来はAI の技術進歩で言語翻訳機能や多言語同時教育等々…補聴器＝「高齢者が隠れて使う」という暗いイメージが払拭されつつあり、補聴器は「聞く」から、会話を楽しみ、外国のTV や映画で同時に翻訳可能となり難聴者用の補聴器から生活を楽しむ器具に変わりつつあります。

また、高度の難聴の場合、自治体（神戸市等）から公的補助が受けられます。その場合、必ず耳鼻咽喉科医の診断書が必要です。直接眼鏡屋や電気店で補聴器を購入すると、とんでもなく高価で役に立たないものを買わされることがあります。難聴の程度に応じて認定補聴器専門医による、特定周波数の増巾や微調整が必要で、購入装着しても脳の感覚中枢が慣れるまでに数カ月かかるので、感音難聴はすぐに効果が得られません。必ず 2 週間程度試聴（可能なら無料で）させて貰ってから購入を決めた方がよろしいです。

以上、耳鼻咽喉科専門医以外の一般の医師または難聴者、あるいはその家族の方々に分かり易く解説する予定です。高齢者に対する難聴を主に説明しますが、補聴器の現状と今後の技術の進歩による新しい展望も述べます。